

若手研究者のための研究キャリア発見マガジン

2021. 冬号

vol.55

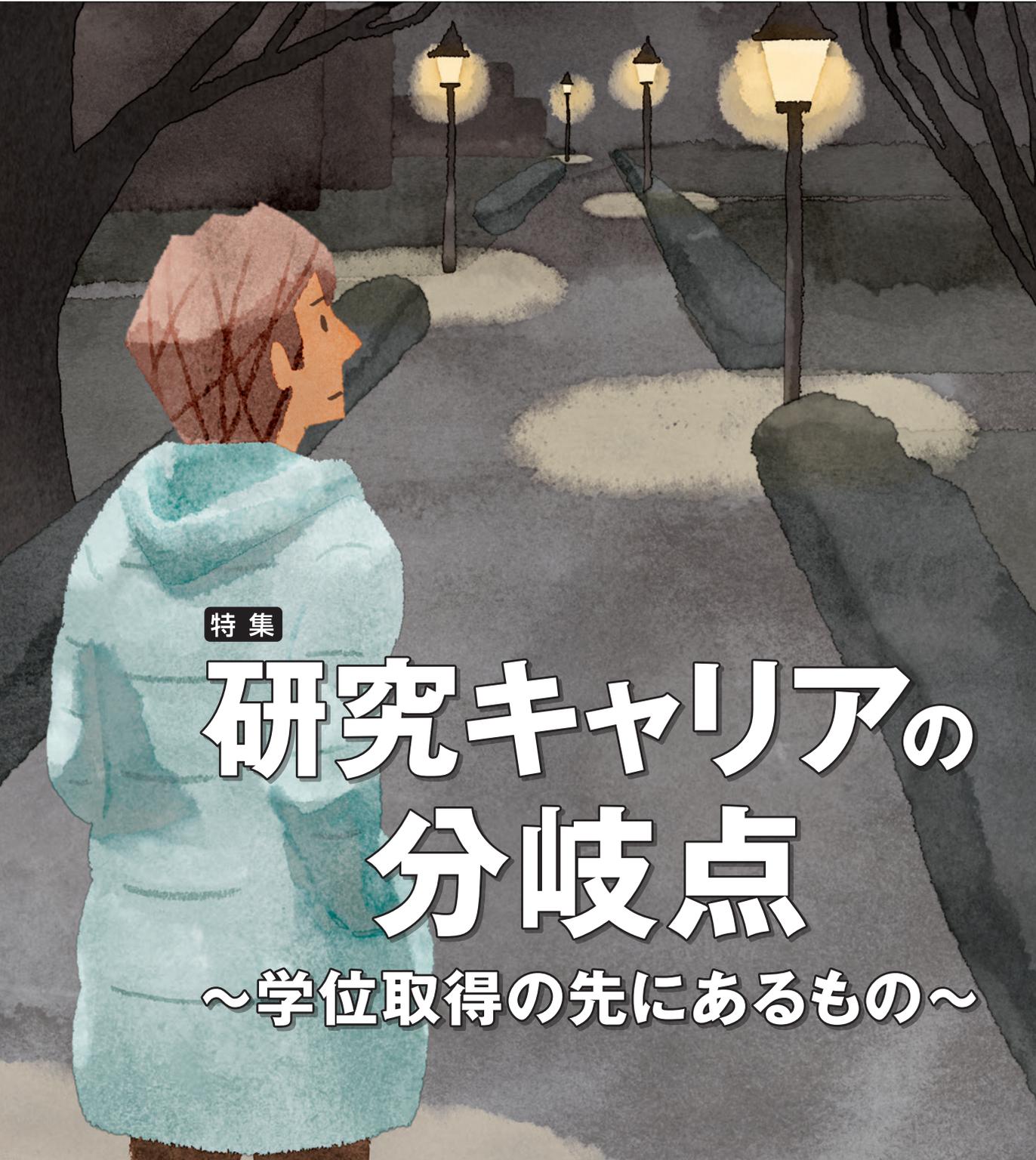
[インキュビー]

incu・be

特集

研究キャリアの 分岐点

～学位取得の先にあるもの～



特集 研究キャリアの分岐点 ～学位取得の先にあるもの～

- 04 未知へと踏み出すチャンスは自らの発信で手繰り寄せられる
(具島 三佳 さん QBキャピタル合同会社)
- 06 複数の居場所を持つことが軽やかな選択を可能にする
(中山 悠 さん 東京農工大学 工学研究院 先端情報科学部門 准教授)
- 08 自分の心に正直に、研究を深められる環境を模索し続ける
(赤尾 慎吾 さん ボールウェーブ株式会社 代表取締役社長)

あの町の研究者を訪ねて

- 11 自分の直感を信じて研究とつながる場に飛び込む
荒井 美咲 さん 東北大学大学院文学研究科 日本学専攻 博士後期課程1年
- 12 つぎの道標 超異分野学会で発表！～自分の研究が外とつながる場に参加してみよう～

探しに行こう 自分の場所

- 14 自分の好奇心に正直になって突き進む、それが自分の道を切り拓く
江崎 貴裕 さん 東京大学 先端科学技術研究センター 先端物流科学寄付研究部門 特任講師
株式会社 infonerv 取締役 President
- 16 答えのない挑戦に迷いながらも、描いた理想はぶらさない
前川 啓一郎さん 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学専攻 博士後期課程2年 KOSEN Labo 代表

Career Discovery

- 18 新時代のビジネスに、博士人材が必要となる理由
- 20 キャリアディスカバリーフォーラム in 大阪を開催！

若手研究者のキャリアを拓くりバネス研究費

- 21 第55回リバネス研究費・第4回リバネス高専研究費 申請者募集中！
- 22 研究キャリア構築にも活かせるリバネス研究費を最大限活用する方法！！

キャリア発見！ツールボックス

- 24 1分自己紹介をパワフルにする ～QPMIシート～

お知らせ

- 26 リバネスでは仲間を募集しています！
- 28 『incu・be』を作っているのはどんな人？
- 29 研究キャリアの相談所

特集

研究キャリアの 分岐点

～学位取得の先にあるもの～

学位取得や論文出版という一区切りを目前に、
ここから先はアカデミア？企業？それとも起業？と選択肢を並べ、悩むこともあるだろう。

自分の人生は一度きり。

これまでの研究を活かして、できるだけ条件の良いところへ、と思い巡らせていると、
何を選んでも心残りが生まれるような気持ちになってくる。

しかし、研究者人生はそこで決まってしまうのだろうか。

研究キャリアの「分岐点」はいつ、どのように訪れるのか。

本特集では学位取得後のキャリア選択とその後に着目し、3名の先輩研究者に話を聞いた。



未知へと踏み出すチャンスは 自らの発信で手繰り寄せられる

具島 三佳 さん

QB キャピタル合同会社

具島さんは研究の世界を究めた博士号取得後、医薬品審査の世界へ飛び込み、今はビジネススクールに在籍しながら投資会社で働いている。キャリア転換の度に職種を変え新しい世界へ踏み出していく具島さんの考え方と、そのような転換を可能にさせたものとは何だろうか。



医薬品開発の新たな視点を手に入れる

具島さんがバイオ分野に足を踏み入れたのは高校生時代。友人の誘いで入部した生物部の活動の中で、まだわかっていないことの多い生物学の魅力に触れ、いつのまにか部長になるほど夢中になっていた。生物のことをもっとよく知りたいと思い、バイオ・医学分野の研究者になるべく熊本大学理学部へ進学、九州大学大学院医学研究院では骨粗鬆症の薬の研究を行い修士・博士課程を修めた。

ちょうど博士課程在籍中の2010年頃、政府の事業仕分けにより科学技術予算が削減されてしまう事態を目の当たりにした。「研究の世界しか知らないというのは危ういのではないか…」そんなもやもやを抱えながら、就職活動は、医薬品専門の営業職であるMRをはじめとした研究職以外に絞って行った。医薬品開発につながる研究を行ってきたことから、薬が世の中にどのように出てい

くのかを知りたいと考えたのだ。そんな考えを周囲の人にも話しているうちに紹介されたのが、医薬品医療機器総合機構 (PMDA) だった。開発された医薬品が人の手に届く前にその有効性や安全性を確かめる「承認審査」の世界を知りたいと思い、就職を決めた。

一転、ビジネスを生み出す世界へ

PMDAでの仕事は楽しかったという。医薬品研究の出口側により近いことで患者さんのためになるというやりがいも強く感じられた。在職中には、プライベートで結婚・出産も経験した。育児中でも良い意味で遠慮せず仕事を任せてくれる上司がいたため、育児・仕事のどちらにも注力できる忙しくも充実した日々を送っていた。しかしある時、当時生活をしていた東京から、九州に向かう事情が重なり、PDMAを離れることとなった。一時期九州の実家の家業を継いだが、「やはり自分はバイオ・医学分野に関わっていたい」と



▲QBキャピタルの同僚(岡部さん)と九州大学 農学部付属農場にてスマート農業の研究をされている岡安准教授を訪れた時の写真。

再認識したところに、15年来の知り合いで、QBキャピタル合同会社代表の坂本剛さんから声がかかった。

QBキャピタル合同会社は大学発ベンチャーへ投資・支援する会社だ。投資というと研究の世界から入るにはハードルが高いと思う人も多いだろう。具島さんは、これまでのキャリアで得てきた自身の知識を生かして研究者とディスカッションすることで、最先端研究の社会実装を進めるアイデアを研究者とともに生み出すことをしている。当然、経営や投資に関する知識も必要となるため、2021年4月からは九州大学のビジネススクールに通い、日々学びを得ることも怠らない。現職でのやりがいは、組織の中の誰よりも研究者とコミュニケーションをとれる存在として、大学発ベンチャーとともにバイオ・医学分野の未開拓地へ挑戦し続けられることだそうです。

仲間づくりがキャリアの選択肢を引き寄せる

一般的に研究者のキャリア選択では「これまでに行ってきたことを活かす」ことに囚われがちで

はないだろうか。一方具島さんは「これまでとは知らない世界で新たな視点を手に入れる」という考えが先行する。「バイオ・医学分野もまさにそうですが、自分が開拓者になって自由に考えていける未知の分野・領域が好きなんだと思います」。

そして、具島さんがその考えを実現するチャンスを引き寄せた秘訣は、学生時代から様々な人との交流の中で、やりたいこと・好きなことを発信したということだ。今でも子供が寝た後、科学技術に関するオンライン勉強会で仲間と集まり、興味を語り合う。キャリア転換の折々で、自分発信に対する周囲からの反応が次の選択につながってきた。こういった人との交流が、今のキャリアにつながっている。

研究者としてのキャリアは、自分の意思と変化し続ける周囲の環境の中で考え続けなくてはならない。具島さんも、人生のタイミングとともにキャリアの変更を余儀なくされた。しかし、自分の知らない世界を新たな武器を手に入れる場所としてポジティブに捉え、やりたいこと・好きなことの発信と仲間づくりによって選択肢を「引き寄せる」事ができれば、やりがいと自信を持ってキャリアチェンジができるだろう。

(文・小山 奈津季)

具島 三佳(ぐしま みか) プロフィール

熊本大学理学部を卒業後、九州大学医学系学府医学専攻にて修士・博士課程修了。博士(医学)。独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)での勤務を経て、2020年9月にQBキャピタル合同会社に入社。同社での勤務の傍ら、2021年4月に九州大学のビジネススクール(QBS)に入学し経営について学んでいる。

複数の居場所を持つことが 軽やかな選択を可能にする

中山 悠 さん

東京農工大学 工学研究院 先端情報科学部門 准教授

これまでのキャリアは「ノリ」で決めてきたと語る東京農工大学の中山さんは、企業就職後に、社会人博士を経て、現在のポストに就いている。中山さんの選択の“軽やかさ”は、どのようにして築き上げられたのだろうか。



「自由」を求め社会人博士へ

中山さんは、修士時代に自然環境学を専攻していた。環境の観測や保全に関わる研究を行う中で、自然環境の研究は一時的に予算はつくものの、それが持続的な形にはなりにくいと感じていた。持続的に研究を進めていく仕組みについて興味を抱いた中山さんは、企業の中にその仕組みがあるのではないかと考え、農学部卒としては異色だったが新卒で日本電信電話株式会社に入社した。入社後は、ベトナムでの通信インフラのシステム導入や、次世代ネットワークに関わる研究に携わりながら、研究を経済の仕組みに載せるバランス感覚を身につけていった。しかし、研究を開始して数年した頃に、転機が訪れた。これまでとは全く違う事業所へ異動することになったのだ。そのとき、自分自身の行動を自己決定できない環境への違和感をはっきり認識したという。「元々、自分のことは自分で決めたいという性格だったん

です。人に言われてやっても納得がいかないというか。企業の中で過ごすうちに、自分は、会社からの評価より、自分がいいことだと納得して行動できたかどうかで幸せ度が決まるとわかってきたんです」。そうして、自分のことは自分で決められる「自由」をキーワードに、自分に合う生き方を考えたとき、思い浮かんだ職の一つが大学教員だった。

着実に実行できる現実解を選択する

人は思い切った選択を迫られると、ついつい極端な考えや行動に走りがちだ。しかし、中山さんは常に目の前にある「現実解」の中から次の道を探ってきた。大学教員への道思い立って最初の一步として選んだのは、仕事を続けながら博士号取得を目指すことだった。博士課程の進学先は、様々な条件を考慮して選択したという。第一に、仕事と研究を両立させる必要がある。そして、博士課程の3年間に十分に活かし、できる限り多く



▲今年から支笏湖において、水中環境モニタリングや水中音響通信の実験を開始。奇しくも学生時代のテーマに近づいてきた。

の論文を書かなくてはならない。今後、アカデミアで活動する上で論文数は重要な要素になるからだ。これらを考慮すると、実験を積み重ねなければならない研究テーマよりも、紙と鉛筆があれば進めることができ、シミュレーションを通じて分析ができるもののほうが向いていると考えた。更に、学部や修士で学んだ自然環境学と、企業で学んだ情報学の知識を活かすことができる場所を探し求めた結果、ネットワークの研究をベースに環境センシングの研究も行っていた東京大学生産技術研究所の瀬崎研究室に進学を決めた。こうして、中山さんは仕事と研究を両立させながら、3年間で30報以上の論文を投稿し、無事博士号を取得した。その後、縁あってついにアカデミアポストを得て研究活動を進めている。まさに、社会人博士の進学を決めた時に思い描いた生き方を実現したのだ。

身近にあった一歩踏み出すための自信の源

現在中山さんは、東京農工大学の准教授としてIoTに関する研究を行っている。ラボの中だけで

自身のテーマを進めるのではなく、企業連携にも積極的だ。「毎年新しい研究を進めては行くのですが、大学教員の生活は毎年同じようなサイクルで回っていくのが数年やってわかってしまったんです。それを、少しずつまらないなと思ってしまっただけです。それで社会実装にも向き合っていこうと思ったんです。自分が飽きないようにこれからはいろんなことをやっていくんだと思います」。ノリよくどンドンと新しい活躍の場へ飛び出していく中山さんの足取りは常に軽い。こうした自分自身のキャリアを切り拓いていく中山さんのスタンスは「多重所属」によって養われたそうだ。「学生の時の縁などもあり社会人の時も個人としてNPOなど複数の場所に入出入りしていたせいとか、どこにいても何とかやっていけるという感覚を得ることができました。一つの所属しかないと思っている人よりも、キャリアチェンジに対する心理的ハードルは下がっていたかもしれません」。一つの所属にこだわらず、常に複数の居場所を持っていることは、自らの一歩を少し軽やかにしてくれる秘訣かもしれない。中山さんのこれまでの歩みを見ても、急に大きな一歩を踏み出していたわけではなかった。まずは、自分の世界から見える場所から、小さく一歩踏み出してみよう。

(文・中島 翔太)

中山 悠(なかやま ゆう) プロフィール
東京大学大学院 新領域創成科学研究科(修士・環境学)を卒業後、日本電信電話株式会社に入社。2018年に東京大学大学院 情報理工学系研究科(博士・情報理工学)を卒業後、2019年から現職。2021年にはJSTのさきがけに研究課題「データ量低減による持続可能なIoT」が採択。

自分の心に正直に、研究を 深められる環境を模索し続ける

赤尾 慎吾 さん

ボールウェーブ株式会社 代表取締役社長

企業所属の研究者でありながら大学で准教授を兼任した後、ベンチャーを立ち上げた赤尾さん。社会人として博士号の取得を目指したり、企業とアカデミアの両方の研究環境を経験した上で、起業を決意してきた赤尾さんはなぜ、新しい環境に挑戦し続けることができるのだろうか？



研究する環境の選択肢を広げた学生時代

赤尾さんの研究人生の一步目は東邦大学から始まった。超微粒子の磁気物性の研究に夢中で、研究室でも一目置かれていた。指導教員から、「井の中の蛙になるな」と外部進学を勧められ、修士課程から筑波大に進学した。学部時代は研究室で一番腕の良い学生だった赤尾さんは博士号の取得を目指していたが、博士課程の入試の結果は不合格。翌年に再度博士課程に挑戦する選択肢もあったが、この機会に本当に自分が進むべき方向を見出そうと、本を読み漁り企業の話聞いてまわった。社会に出て自分の視点を広げようと思う一方、いつも心にあったのは研究を続けたいということ。そして、たどり着いたのが物理学関連の研究チームを持つ凸版印刷株式会社の研究職だ。

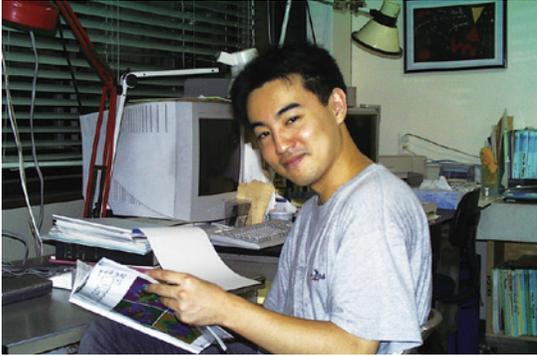
産学連携研究で再び開かれた博士号への道

入社後は、ディスプレイ関係の研究開発をして

いたが、4年目に転機が訪れた。凸版が東北大学の山中一司先生とボールSAWに関する共同研究を始めることになり、物理現象の研究を切望していた赤尾さんはプロジェクト参加に迷わず手を上げた。ボールSAWとは球の表面で、ある幅の表面波を起こすと回折現象が起きず、平行かつ減衰しない波として多重周回する現象だ。この現象を応用すれば、球面上の官能膜に付着した微量なガス分子による表面波の変化から、微量成分を検知する、これまでにない精密センサーを実現できると考えられていた。共同研究が進む中で、社会人博士を経験した先輩たちや山中先生の後押しもあり、赤尾さんは再び博士号の取得を目指すことにした。今度は社会人学生として入学し、共同研究先の山中先生の研究室で、一度は道が閉ざされたと思った博士号を取得することができたのだ。

研究を続けるため決断したベンチャー設立

学位取得後も赤尾さんは凸版社員として、ま



▲超微粒子の磁気物性の研究に取り組んでいた頃の赤尾さん。
将来、ベンチャーを立ち上げるとは想像もしていなかった。

た東北大学の客員准教授として山中先生との研究を続けていた。しかし、ボールSAWの研究が進む中、産学連携の共同研究のプロジェクトが終了することとなってしまった。さらに、このタイミングで山中先生も退官を迎えることとなり、このままの環境で研究を続けることが難しくなった。「僕はボールSAWの研究を続けたかった。どうしようかと思っていたら、山中先生が大学発ベンチャー支援のための資金つきプログラム (START) を見つけてきて、僕を代表にしてベンチャーを立ち上げないかって言うんです」。これまで研究一筋だった赤尾さんはベンチャーを立ち上げるという選択にはじめは不安もあったという。しかし、ボールSAWの技術が誰よりも好きだという自負と、ボールSAWをセンサーとして実用化できれば、社会を変えるほどの高性能センサーができる確信はあった。師である山中先生と、これまで一緒に研究してきた信頼する仲間とやらやっつけられるはずだと、ボールウェーブ株式会社を設立した。

分岐点こそ自分の心を見極めるチャンス

企業、アカデミア、ベンチャーと様々な所属や立場を経験してきた赤尾さんだが、「自分では大きな変化という感覚はなく、研究という意味ではやっていることは一貫しているんです」と語る。博士号への道が行き止まりのように感じたり、同じ環境で研究し続けるという道が絶たれる場面に遭遇しながらも、赤尾さん自身は、その時に自分の心が示す方向に正直に従ってきたという。さらに、赤尾さんが未踏のベンチャー立ち上げに踏み切ったのは研究者にならできると考えたからだという。「研究とは、徹底的にロジックを突き詰めて考え、人類が未知の知識領域を一步先へ開拓していくこと。地平の先を超えるとどうなるか誰もわからない。そこに挑戦していくということは、研究もベンチャーも似ていると思ったんです」。

研究や進路の中で起きる、想定外の展開や環境変化。そんなときこそ、目の前にある選択肢以外にも視野を広げ、自分の心が向く方向を見極めるチャンスと捉えてみてはどうだろうか。案外そんな人生の変化や分岐点の積み重ねが、自分の心のコンパスが示す先をより明確にし、自分だけの一続きの道を作るのかもしれない。(文・西村 知也)

赤尾 慎吾 (あかお しんご) プロフィール

東邦大学理学部物理学科卒、筑波大学大学院理工学研究科修士修了。凸版印刷株式会社に入社、研究開発に従事しつつ、東北大学大学院工学研究科博士課程後期を修了。東北大学未来科学共同研究センター客員准教授を経て、2015年にボールウェーブ株式会社設立、代表取締役社長就任。

分岐点を創るのは自分だ

自ら発信して自分が「変化」するチャンスを引き寄せる具島さんの道。

大きな分岐点を創るというよりは、常に複数の小さな分岐を共存させているように見える中山さんの道。

そして、卒業などの年齢的なタイミングには囚われず、自分のタイミングで分岐点を創る赤尾さんの道。

肩書だけ見れば、全く異なる世界に一大決心をして飛び込んでいったように見える3名だが、
無暗に未知の世界に飛び込んだわけではない。

目標を実現するために組織や業界の枠を取り払って考えた結果として、
キャリアチェンジを行っていたのだ。

人生において、家庭や職場環境、そして自分自身の考え方も変化するのに、
一つの職業や職種に一生囚われる必要はないだろう。

その時の自分の想いに耳を傾け、自ら分岐点を創ることで
キャリアを歩み始めた当初は想像もなかったような研究者としての
新しい選択肢が目の前に現れるかもしれない。



あの町の研究者を訪ねて

このコーナーでは、ユニークな活動を続けている研究者を訪ねて日本各地を巡ります。
もしかしたらあなたのいる場所のすぐ近くでも、研究の旅路に行く素敵な誰かに出会えるかもしれません。

自分の直感を信じて研究とつながる場に飛び込む

東北大学大学院文学研究科
日本学専攻 博士後期課程 1年
荒井 美咲 さん

東北大学大学院文学研究科日本学専攻現代日本学専攻分野博士課程前期修了、同大学院博士課程後期在学。研究テーマは「キャラを介した人間関係およびコミュニケーション」で、現在「キャラ」を切り口にして医療における対人関係および対話を分析している。また、地元富谷市をフィールドに都市アイデンティティ研究も並行して実施中。



私は、キャラによって人間関係やコミュニケーションがどう形成されていくかという「キャラ」の研究をしています。例えば、病院内における患者・患者間と患者・医師間、患者・健常者間のコミュニケーションでは、患者のキャラが変化し、自己表現の方法や見せる顔も違ってきます。これまであまり注目されてきませんでした。キャラによる自己表現が治療効果にも影響があると考え、現場の観察やインタビューを通して研究しています。

キャラの研究を始めたのは、以前中国で日本語教師として働いていた経験が大きなきっかけとなっています。生徒のひとりに非常に丁寧な日本語の言葉遣いをする方がいました。日本人にとって丁寧すぎる言葉遣いにかえて違和感を覚えたため、担当の先生になぜ指摘しないのかと聞いたところ、その生徒のキャラをつくっているからいいのではないかとされました。その時、言葉の使い方と人の見え方は密接に関係しているのに、日本語教育の課程ではそれを教えないことに疑問をもったのです。この経験から、人をつくり社会をつくる上で最もキーになるのがキャラだと気づ

き、日本語教育の教科書にどう取り入れていくかを考えたいと、キャラの研究を始めました。日本語教師という活動が、新たな研究の一步をつくることになったのです。

この研究はどの分野にも属さないユニークさがある一方で、どこからも注目されにくいのが悩みでした。でも、恩師から、とにかくいろんな活動に参加して自分の経験と直感を活かして研究すればいいと言われました。好奇心が研究につながり、それを積み重ねていくと、連続した気づきになるのだと思います。偶然私の地元の富谷市で開催された超異分野学会富谷フォーラムで研究発表に挑戦したところ、異種混合分野のキャラ研究と超異分野のコンセプトが合致して、ポスター賞を受賞し新たな共同研究テーマも立ち上がるなど、多くの方の興味をひくことができました。

場というのは、そこに集まる人たちや外的要因などによって常に動的に変化している有機物であり、自分自身が参加することでも、少なからず有機反応を起こせるのではないかと思います。今は何になるかわからなくても、思い切った場に飛び込めば必ず研究に生きるものがあると信じています。

(文・富田 京子)

荒井さんが飛び込んだ場、超異分野学会のご案内は次のページへ→

超異分野学会で発表!

～自分の研究が外とつながる場に参加してみよう～

普段、自分がラボや特定分野の学会で議論している研究の面白さを、異なる分野や業種の人に伝えたら何が起ころうでしょうか。超異分野学会は、業種も年齢も関係なくいろんな人が集まることで新しい知識を生み出す場です。アカデミアの研究者だけでなく、ベンチャー、大企業の研究者やビジネスパーソン、町工場の匠、医師、農業者、自治体、中学・高校生なども一同に介し、議論します。ここであなたが研究発表することで、これまで出会わなかった多様な人と繋がり、新しい研究テーマや共同研究に発展するかもしれません。

申し込み・詳細はこちら

<http://hic.lne.st/>

リバネス 超異分野学会

検索

東京・大阪の2拠点で、ポスター演題募集中!

[関連キーワード] あらゆる研究分野

[参加対象者] アカデミア、ベンチャー、大企業、町工場、自治体、中学・高校生 etc

[参加費] アカデミアの研究者・学生は無料

東京大会 2022

演題登録締切: 2021年12月26日(日) 18:00

大阪大会 2022

演題登録締切: 2022年4月15日(金) 18:00

登録はこちら



超異分野学会 東京大会 2022

[日時] 2022年3月4日(金) 10:00～18:30、5日(土) 10:00～18:00

[場所] TOC GOTANDA MESSE (TOC五反田メッセ)

[大会テーマ] 知識の還流 —地球貢献の時代へ—

[ポスター演題数(予定)] 150演題

[演題登録締切] 2021年12月26日(日) 18:00

[ポスター発表コアタイム]

3月4日 11:00～12:30

3月5日 11:00～12:30

超異分野学会 大阪大会 2022

[日時] 2022年5月28日(土)

[場所] ATCホール(大阪府大阪市)

[演題登録締切] 2022年4月15日(金) 18:00



▲毎年、熱のある議論が巻き起こるポスター会場

探しに行こう 自分の場所

目標を見つけ、実力を養い、
理想の場所にたどり着くために
どんな道を進むべきだろうか。

どんな研究者になりたいのか、
活躍するには何が必要なのか。

そして、どんな研究キャリアがあるのか。

ただ、じっと待っていても答えは見つからない。

いろいろな人に出会い、

さまざまな場所を見ることで

自分の未来を描くヒントを見つけよう。

変化を楽しみながら

さあ、自分の場所を探しに行こう。

探しに行こう 自分の場所

自分の好奇心に正直になって突き進む、 それが自分の道を切り拓く

江崎 貴裕 さん

東京大学 先端科学技術研究センター
先端物流科学寄付研究部門 特任講師
株式会社 infonerv 取締役 President

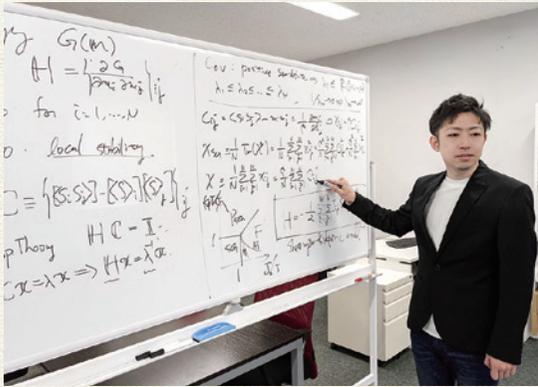
物流の課題を解決する“ α -発注”という新たなサービスを提供する株式会社infonervを経営する江崎さんは、自分が面白いと思った数理モデルの探究に迷わず突き進んできた。その結果、数理モデルの研究を軸に、アカデミアでは、渋滞学、神経科学といった様々な領域を渡り歩き、自ら起業するというキャリアを切り拓いた。



“おもしろそう”が、原動力

「研究者になろうとは思っていなかった」。数理モデルを使って脳の活動の解析や交通量の流れ、酵素分解や、人間の行動の解析などといった多岐にわたる研究成果を残されている江崎さんから驚くような言葉が飛び出した。「自分が面白そうだと思ったこと、そして自分だからこそやれることは何かを考えて行動してきた」と話す。大学生の頃、江崎さんは数理モデルを社会に役立てることに興味をもち、数理モデルによるシミュレーションを構築することで渋滞の解決に取り組んでいる研究室に入った。大学院修了後、知り合いの研究者を通して知ったネットワークの数理解析技術を用いて神経科学を研究する研究テーマに興味を持ち、自らそのプロジェクトに加わってヒトの脳の活動を理解する研究を行ってきた。数理モデ

ルを使ってわからないことが明らかになった瞬間がたまらなく面白く、また様々な分野を横断してきた自分だからこそできることがあるという実感があつた。研究で使われているデータ分析手法が分野によって異なり、その手法も限られた選択肢のなかから選択されて使用されていることに気がついたので。手法の選択肢はもっとある。多くの分野で使われる数理モデルの全体像を理解できれば、本質を捉えて、目的とする解析のための手法を多くの選択肢から適切に選ぶことができるようになるのではないかと。そのような思いから江崎さんは今も分野を問わず多くの問題に挑戦している。また、このような視点を広めるために、データ分析に使用される数理モデルの全体像を誰でも理解できるような書籍を執筆した。



▲数理モデルを使って、起きていている現象を解明していく

江崎 貴裕 (えざき たかひろ) プロフィール

東京大学工学部航空宇宙工学科卒業後、同大学院博士課程修了、博士(工学)。日本学術振興会特別研究員、国立情報学研究所特任研究員、JST さきがけ研究員、スタンフォード大学客員研究員を経て、2020年より現職。2021年には、株式会社 infonerv を設立し、数理的な解析技術を武器に物流科学を軸にした問題に取り組む、活動の幅を広げている。著書に『データ分析のための数理モデル入門～本質をとらえた分析のために』(ソシム) 2020.5.13 などがある。

数理モデルの可能性を広げる挑戦

江崎さんの活動は大学の研究室だけにとどまらない。数理モデルがどういう課題解決に役に立つのだろうか。もっと様々な課題の解決に役立てることができるのではないか、そのような思いから、数理モデルを使って課題を解決する会社である株式会社 infonerv を設立した。まず、江崎さんは課題が山積みの物流に着目した。商品を発注するとき、販売量を見積もり、適切な量を算定する必要がある。しかし、この適切な発注量は、需要などによって大きく変化するため、なかなか見積もるのが難しく、在庫の偏りや過剰発注、在庫切れによる売り逃しなどが生じていた。そこで江崎さんは、数理モデルを使うことで、需要などのデータを元に適切な発注量を算出できる“ α -発注”というサービスを生み出した。この“ α -発注”により、需要の変動と仕入の条件をふまえた発注リストを、誰でも素早く作成できるようになり、発注量の検討に使われていた時間の削減や、人の経験や勘に基づく不適切な発注の防止につなげることができた。アカデミアで研究を行いながら起業し、研究成果を社会につなげたことで、一つ課題を解決することができたのだ。

興味のままに研究もビジネスもやり続ける

世の中に課題はまだある。「これからも、数理モデルを使った多様な手法からその課題解決にベストな方法を見つけながら、物流にとどまらず、あらゆる課題を解決していきたい」と江崎さん。数理モデルがどんなことに役立っていくのだろうか。江崎さんの興味は膨らんでいく。そして、「ただサービスをつくり提供するだけでなく、数理モデルがまだまだどのような課題解決に使えるかを、アカデミアの研究者としても研究を続けていきたい」と話す江崎さんの言葉には力が入る。自分がおもしろそうと思った気持ちに素直になって、とにかくそこへ突き進んでみる。その積み重ねが、自分の道を切り拓いていく。これからもそれは留まることを知らないだろう。

文・八木 佐一郎

アカデミアか企業のどちらで研究を行うかを迷う研究者の方は多いかと思いますが。その中で、江崎さんはアカデミアで多くの業績を残しつつ、起業をされていて、なぜそのようなキャリアをとられたのか気になっていました。今回の取材を通して、自分が好奇心をもったことを中心にキャリアを決定していく勇気をもたらすように思います。



探しに行こう 自分の場所

答えのない挑戦に迷いながらも、 描いた理想はぶらさない

前川 啓一郎 さん

豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学専攻
博士後期課程2年
KOSEN Labo代表

自身が高専時代に感じていた閉塞感と、それを払拭した成功体験を次世代の高専生に届けたい。その想いで、高専生の可能性を拓く活動を行う団体「KOSEN Labo」を立ち上げたのが前川さんだ。現在は、前川さんの想いに共感して集まった8名と活動している。やり方に迷いながらも目指す理想はぶれない、前川さんらしい在り方について聞いた。



アウトプットを通して学んだ価値に気づく

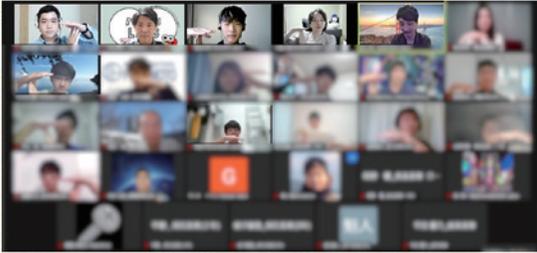
高専は、高校生と同じ年代から専門分野が学べる教育機関だ。5年一貫のカリキュラムでは実験実習や研究活動も盛んに行われ、とにかく手を動かして考えることで実装力や推進力が培われる。だが意外にも、中にいるとその価値に気づけなかったと前川さんは話す。「高度な技術を勉強しても、それが自分の将来や、社会にどう結びつくのかが見え辛かったんです。だから勉強の楽しさをなかなか見出せなかった」。

そんな前川さんを変えてくれたのが、短期留学プログラムや研究だった。特に高専5年次の卒業研究は、これまで学んだ知識を総動員しながら、答えのない新しい課題を自ら設定して発想・思考する、ある意味“究極のアウトプット”の場だった。学んだことが先につながる実感が持てたことで、もっと学びたい意欲が湧いた前川さんは、大学に編入する道を選んだ。一方で、「自分は5年生で気づけたけど、それだと遅い。研究のように、

アウトプットして自分の学んだ価値に気づく機会が、もう少し早くあれば」という葛藤も残った。

外との接点で自分の可能性を知る

大学編入後の体験も、前川さんに発見をもたらした。それは企業の人との接点があったことだ。研究室で実験を進めるにあたり、自分から実験機具の会社に問い合わせ、こんな機具がほしいと相談する機会が生まれた。それまでは「社会人は雲の上の存在で、僕なんて何もできることはない」と思い込んでいた前川さんだったが、気づけば企業の人と対等に話している自分がいた。しかも、高専から電気工学を専攻していた自分の知識を、企業の人に教える場面さえあったという。「自分の得意な領域なら、僕にもできることがある。誰にも負けない価値を学生でも発揮できる」。高専という同質な集団の中にいた時にはわからなかった、自分自身の、そして高専生の可能性に、前川さんが気づいた瞬間だった。



▲KOSEN Labo主催イベントの様子

前川 啓一郎（まえがわ けいいちろう）プロフィール
技術・科学に興味を持ち、奈良高専に入学。現在は豊橋技術科学大学の博士後期課程に在学し、燃料電池材料の研究に携わる。自身の経験から、高専生が社会と繋がる場が必要だと考え、KOSEN Laboを設立。現在は高専現役やOB生をメンバーとして率い、高専生対象のイベントを企画・運営している。

高専生が新たな一歩を踏み出す場づくり

自分と同じように、アウトプットする機会や外との接点があれば、高専生が自分の可能性に気がつき、自分なりの道へと挑戦できるのではないかな。そんな仮説のもと「高専生がもっと輝く場所を作りたい」と強い思いを抱いた前川さんは、コロナ禍のさなか、高専卒の仲間と共にKOSEN Laboという団体を立ち上げた。

2021年7月、第一弾のイベントとして実施したのがアイデアソン「KOSEN HIRAMEKI Project」だ。企業に課題テーマを提示してもらい、学科横断のチームを組んだ高専生が、課題解決アイデアを考えるという設計だ。普段接することのない他高専・異分野の学生同士で意見をぶつけ合い、企業の人と交流することは、高専生が相対的な自分の強みを知る機会になる。また、自分なりの課題解決アイデアをアウトプットすることで、学んできた知識の価値にも気づく機会になるのだ。実際に参加者からは「自分の知識が貢献できるとは考えたことがなかった」という感想が多く寄せられ、手応えを感じる結果となった。

もちろん課題もある。アイデアソンのような催しは、元々キャリアへの意識が高い学生が集まりやすい。「昔の僕のように悩んでいる、いわゆるキラキラ系ではない学生にも来てもらうには、もっとハードルを下げる必要がある」と前川さんは前を向く。

ビジョン共有が仲間を動かす原動力

前川さんの、課題に向き合い続け、活動する原動力は一体どこから来るのだろうか。そのヒントがKOSEN Labo立ち上げのエピソードにある。個人的に活動していた前川さんは、大学が主催するイベントでたまたま高専出身のメンバーと知り合った時、高専生に関する課題感と、なんとかしたいという自分の想いを伝えてみたのだ。いざ話してみると「僕もそうでした、とすごく共感してくれました」。前川さんの想いに共感した仲間がまた仲間を連れてきて、最初2人だったメンバーは、現役高専生を含む8人にまで増えた。

高専生が自分の可能性に気づくための最適解は、まだ誰にもわからない。それでもどうにかしたい、と想いを発信し続けることで、仲間を増やしながら仮説検証を繰り返していくことができるのだ。前川さんのぶれないビジョンが、これからも数多くの高専生の仲間を動かす原動力となるだろう。

文：内山 啓文

正解のないなか、時に迷いながら活動する一方で、ビジョンは一切ぶれない。このアンバランス感があるからこそ、つい応援したくなってしまいました。私も高専出身なので高専と一緒に盛り上げましょう！



キャリアディスカバリーでは、研究者が自分自身の活躍の場を見つけ、キャリアを「自ら創りに行ける」世界を目指しています。そのために、研究者が社会に飛び出し、多様な生き方に触れること、自分の研究への思いやビジョンを語ることで、自分を鍛えるために行動をするきっかけを提供しています。

コラム

新時代のビジネスに、 博士人材が必要となる理由

リバネスは、先が見えないこの時代こそ、産業界に研究者が必要であると考えています。2002年、15人の修士博士の学生が集まって設立したリバネスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念を掲げ、200を超える企業、1500人のアントレプレナーや研究者たちとともに、新たなビジネスを創出してきました。なぜ新たなビジネスに研究者の力が必要なのか、19年間、リバネスで活躍する博士人材が経験とともに蓄積してきた知識から、新たなビジネス創出に取り組むすべての人に必要な姿勢や考え方を洗い出します。

人にしかできない仕事とは

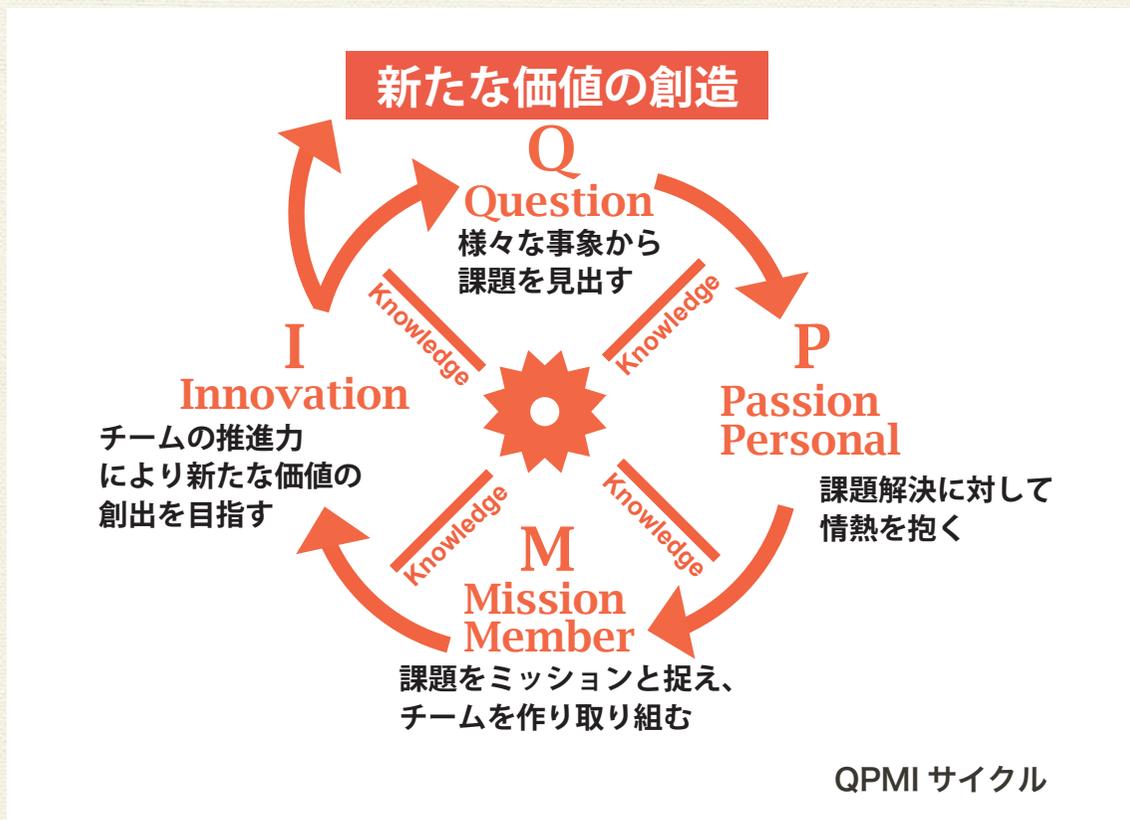
20年ほど前までは、上司から指示された仕事を決められた手順で早く正確にこなすことが多くの場面で求められる「仕事」でした。つまり「仕事＝事に仕える」といえます。しかし今後、決められた手順でこなせる業務は、すべてロボットやAIに任せられるようになります。この動きが進むと、人間がやるべき仕事は「事に仕える」から「事を仕掛ける」に変わっていくでしょう。つまり、人間しか持っていない知識を総動員して、新しいものや価値を作り出す。それが人にしかできない「仕事」になります。

自ら「問い」や「課題」をもち、それらが解決された未来図を描き、試行錯誤し検証を繰り返すことが、「事を仕掛ける」仕事に欠かせない思考になっています。これはまさに、研究者が未知の解明のために行ってきた研究活動そのものです。リバネスに集まる博士たちもこの研究的思

考を活用し、個々人が社会の中から課題を見出し、それを解決するためのビジネスを生み出してきました。これからの産業界では、研究的思考をもって自分自身で解決したい課題を明らかにできる人、課題解決に向けて、仮説検証を続けられる人、世界初を自分自身の手で生み出せる人が、ますます求められていきます。

新しいビジネスは個人の熱から生まれる

これまでのビジネスにおいて新たな計画を立案する際には、一般的には過去の実績や経験、データなどを参照しながら、これからどの程度の投資が必要で、市場規模を算出し、売上げはどの程度見込めるかなどが議論されます。しかし、まったく前例のない事業ともなれば、過去の実績等は皆無であり、市場規模や売上げを予測するのは非常に困難です。つまりこれからの時代において、新たな事業を生み出すためには、



過去を振り返りながら「できるか、できないか」を考えていても、答えは出ません。

ここで必要になるのが、1人1人が「やるか、やらないか」を決めること。つまり個人が関わると決めた「問い」や「課題」に対して、自ら取り組もうとする「熱」、これがビジネスの起点になります。個の熱から新たなビジネスを生み出すためのステップとして、リバネスはQPMIサイクルを提唱しています。まずQ (Question) は、自らが問いや課題を見出すこと、P (Passion) はそのQに対して情熱を燃やすことです。次にMは、その情熱を外へ発信して、共感する仲間 (Member) を集めチームをつくり、問いや課題をそのチームのMissionとして掲げること。そしてチームが試行錯誤を繰り返しながら活動을続けることで結果としてI (Innovation) が生まれるという考え方です。

**所属やスキルではなく
パッションで採用される時代がくる**

これからの企業においては、社員一人ひとりの個人の情熱をいかにしてドライブさせるかが、経営の本質となります。そしてこれからの採用においても、学生個人のQuestionとPassionが重視されていくでしょう。採用プロセスにおいて、学生のQuestionとPassionを、いかにわかりやすく相手に伝えるか、そして相手の共感を得られるかどうかがかギとなっていきます。ただ、この力は一朝一夕には身につけません。学生個人が日常的に、自身のQuestionとPassionを異分野の相手にぶつけ、そこからどのような未来が描けるかを議論する訓練が、これからもっと必要になっていくでしょう。(文・立花 智子)

キャリアディスカバリーフォーラム in 大阪を開催!

研究で培った専門性を、社会でどのようにして活かせばいいのだろうか。自分の研究をわかりやすく伝え、目指す姿や熱意を表現する力を身につければ、自ら活躍の場を開拓していくことが可能です。

キャリアディスカバリーフォーラムは研究者の力に期待を寄せる企業が集まる場です。一般のキャリアイベントとは異なり、採用だけをゴールとせず、熱を持った「人」との出会いで、社会の課題を解決しうる新規プロジェクト、新規研究テーマを生み出したい企業が集まっています。参加学生にとっては自身の専門をわかりやすく伝えることはもちろん、自分の知識を社会で活用することを意識したディスカッションに挑戦する場でもあります。

研究成果の社会実装を目指して起業した先輩研究者たち、そして研究者の力を借りて新たに事を仕掛ける起業家たちとの交流から、ご自身の研究活動やキャリアについて新しい視点を得る機会としてご活用ください。

〈イベント概要〉

日時：2022年2月12日(土) 13:00-16:00

場所：大阪科学技術センタービル

対象：研究活動に取り組んでいる学部生、大学院生、
ポストドク研究員など

〈参加企業(10社予定)〉

関西圏で活躍する研究開発型ベンチャーが参加!

株式会社 Air Business Club

大阪ヒートクール株式会社

CRUST JAPAN株式会社

ハイラブル株式会社

株式会社 AutoPhagyGO

株式会社リバナエス 他

〈当日のプログラム(予定)〉

13:00-13:10 開会挨拶・趣旨説明

13:10-14:00 オープニング・セッション

14:00-14:20 ディスカバリースプラッシュ

参加企業による自社紹介ピッチを行います。

14:20-15:50 ブースセッション①②

参加企業のブースにて、参加者による研究紹介やテーマに沿った議論を行います。

40分のターンを2回実施します。

15:50-16:00 閉会挨拶



■ 参加登録・参加企業情報は
Webページをご覧ください。



〈お問い合わせ〉

株式会社リバナエス 人材開発事業部(担当:仲栄真)

Tel: 03-5227-4198 / Mail: hd@Lnest.jp

〈こんな若手研究者におすすめ!〉

- 異分野や企業の視点を取り入れて研究の議論がしたい
- 自身の研究を発展させ、人を巻き込んでプロジェクト化したい
- 研究成果を社会実装したいので、アイデアの壁打ちがしたい
- 研究開発型ベンチャーに興味があり、話を聞いてみたい

じぶんの研究を はじめよう。

申請書を書くことで異分野の人へ伝える経験を、
採択された場合には自分で研究費を管理する経験を積むことができます。
何より、自分が主体的に考えた研究を、自らの力ではじめてみませんか？
あなたのアイデアと熱い思いをぜひぶつけてみてください。

第55回リバネス研究費・第4回リバネス高専研究費 申請者募集中！

第55回 リバネス研究費

助成対象：自分の研究に熱い思いを持っている40歳以下の
若手研究者・大学院生・学部生
用 途：採択者の希望に応じて自由に活用できます。

● マイキャン・テクノロジーズ賞

対象分野 ウイルス感染症研究や、免疫細胞を使った機能性評価に関わる研究

採択件数 若干名 助成内容 研究費30万円+研究用細胞の提供(採択から1年間)

申請締切 2022年1月31日(月)18時

第4回 リバネス高専研究費

助成対象：・高等専門学校に所属する学生
・高等専門学校に所属していて、学生の研究活
動を指導する教員(※)

用 途：採択者の希望に応じて自由に活用できます。

※教員が応募する際は、必ず指導学生と共に申請書の作成や面談などに対応ください

● Garage Ota賞

対象分野 本気で社会実装したいハードウェアの研究開発

採択件数 若干名 助成内容 研究費30万円 申請締切 2022年1月31日(月)18時



登録及び過去研究費の採択情報はこちらから

<https://r.lne.st/>



研究キャリア構築にも活かせる リバネス研究費を最大限活用する方法!!

「若手研究者を応援する」リバネス研究費ですが、実際に研究費を獲得した人はどのように活用しているのでしょうか。
過去にリバネス研究費に採択された2名から生の声を聞いてみました！

研究費から広がる機会を 積極的に掴もう

大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻
テニュアトラック助教
高分子科学の様々な応用を目指す研究者

岡 弘樹 さん



<採択されたリバネス研究費>

第46回 リバネス研究費 エネルギー・エコシステム賞

第49回リバネス研究費 ダスキン開発研究所賞

Q 申請時に工夫したことは？

A 申請時、審査員は異分野の人だという前提で、自分の研究の面白さを伝えることを力点におきました。また、賞の趣旨に応えることも意識しました。「独自性」を評価するなら「ここが独自性だ」と明確に記載し、注目して読んでもらえるようにしましたね。基礎研究の視点の他に、技術について、また応用可能性の独自性の3点は必ず書きました。自分の研究で誰が幸せになるのかを意識すると、どんな人にも価値が伝わると思います。申請を作ることで自分の研究を俯瞰的に見る力や社会にどう還元していくかを考える機会になりました。

Q 研究費をどのように使うことで自分のキャリアに活かせると感じましたか？

A 研究計画にないアイデアを試すために使えたことは、自分の研究の幅を広げたと思います。興味ある海外研究者が日本滞在中にラボで招待講演を企画することもできました。賞金だけでなく、申請をきっかけにリバネスから企業を紹介してくれたり学会に誘われ、産学のネットワークが構築できたことも財産です。自分の研究実績や視点を広げてくれました。

Q 自分がやりたい研究をラボや社会で実現するコツはありますか？

A ラボの文化によっては自分のやりたいことを自由にできる環境にないかもしれません。しかし、やるしかないんです。先生や周りを説得できる材料を揃え、自分で周りに働きかけ、切り開いてみることも重要だと思います。

リバネス研究費応募してみよう

◀◀◀ P21に今号で申請できる研究費テーマがあります。ぜひ応募してみましょう。 ▶▶▶

異分野の人と出会い、 視野を広げる機会に

大阪大学大学院 基礎工学研究科 機能創成専攻 博士後期課程 2年
日本学術振興会 特別研究員 (DC2)
粉体の力学的特性を工学に応用したい研究者

吉井 究 さん



<採択されたリバネス研究費> 第50回 リバネス研究費 incu・be 賞

Q 申請したきっかけや工夫したことはありますか？

A 博士論文のテーマとは別にやりたいテーマがあり、学振も2次採用候補だったので資金が得られるか不明でした。ラボの先生にお願いすることも遠慮があって、自分で自由に使えるお金を獲得したいと思い申請しました。

申請に際しては、ラボの先輩との違いが描けるように意識していました。学生のうちは申請する機会も少なく、場数を踏むと良い書き方のパターンは掴めるようになってきたので、申請するだけでも十分意味があると思います。1つ通ると自信になって、他の研究費も通るようになりました。

Q 研究費をどのように使うことで自分のキャリアに活かせると感じましたか？

A 使い道として、科研費では制限のあったPCのカスタマイズができました。また、普段参加していない異分野の学会に足を運べました。発表しないと学会参加費用は出ないので、気軽に人に会いに行き、ネットワークを広げられたことが一番の財産になりました。その中で、全く分野の異なる研究者たちとディスカッションできたことで、研究の視野を広げることができました。

Q 自分がやりたい研究をラボや社会で実現するコツはありますか？

A 研究費の申請は、研究ストーリー準備期間だと感じます。採択されなくてもやっちゃうよ、私を採択しないでいいの？というところまで詰めて、その勢いで書いたり、周りを説得できると熱意が伝わるんだなど実感しました。



今回の
ツール

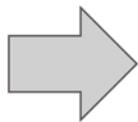
1分自己紹介をパワフルにする ～QPMIシート～

「自己紹介を1分でどうぞ!」学会やワークショップ、就職活動といった、新しい人に出会う場面でそんなことを振られたとき、どんな自己紹介をしていますか? 自己紹介は相手に興味を持ってもらう入口であり、その後の話を広げる方向性を決める、案外重要な一幕です。今回は、「自分の研究を加速したい」「自分のキャリアを広げたい」といった自分のキャリアを開拓しようとしている場面で、あなたに必要な仲間を集める力になる「1分自己紹介」を考えるためのツールを紹介します。

このツールで目指す自己紹介の形は以下の図のようなものです。左と右の違い、わかるでしょうか? 左の人は「自分は何をしている人か (What)」を話していますが、右の人は「自分は何をしたい人か (Why)」を話していますね。右のような話し方には「力」が感じられませんか? その力は、自分の向かいたい方向性を示し、相手の行動を促す力になるのです。

〈自己紹介の変化イメージ〉

私は、
藻類の光合成について調べる研究者



私は、
地球規模のCO2削減に貢献したい!



PC で書き込めるシートのダウンロードができます!

使ってみたい人は web へ! https://incu-be_vol55_toolbox

自己紹介ができたなら、外に行ってみよう!

incube 編集部からのオススメ

- 超異分野学会 (P12)
- キャリアディスカバリーフォーラム in 大阪 (P20)

❖ 仲栄真礁さん（琉球大学大学院修了 博士（理学））の事例

P.26-27で紹介する、リバネスの採用イベントでも1分自己紹介の場面は多くあります。以前そこに参加し、リバネスに入社した仲栄真礁さんは、自己紹介を考えるために、QPMIシートを活用しました。

あなたのQ	なぜ大人だけで未来の自然環境保護の方針を決めているのだろうか？
そのQはどんな場を見て生まれたのか	海岸調査中に年配者に言われた「今の若い人は生き物がたくさんいた昔の海を見れなくてかわいそう」と言われた。自分が年寄りになったときに孫やひ孫にそんな事言いたくない、次世代の共感を得るビジョンが必要だと思った。

研究を通じて実現したい未来	次世代と協働し、豊かな自然を創る
直近の目標	中高生の自然史研究を支援する取り組みを仕掛け、大人と子どもが未来の自然環境について対話できる場を創る

あなたのP	次世代に豊かな自然環境を残したい！
そのPに由来する自身の経験	研究や調査、趣味で訪れた沖縄の自然に感動！生き物たくさん！いい景色たくさん！

M 自分の現在の研究テーマ	アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i> の蛍光タンパク質：その機能と色彩多型における役割について
自分のQPとのつながり	沖縄の豊かな生態系について、次世代とコミュニケーションできるだけの深い知識と思考力を得る。

- ①あなたの Question：研究室が掲げる「問い」ではなく自分自身が解き明かしたい疑問は何だったのか？ 自分の過去を振り返ってみます。
- ②あなたの Passion：「～したい！」と心から沸き起こる情熱は何かを書いてみます。
- ③①②を持ったあなたがなぜ今の研究をしているか、そのつながりを書いてみます。
- ④実現したい未来：自分が最終的に挑戦したい事は何かを考えて書いてみます。

QPMIシートを通じて、 以下のような1分自己紹介ができました！



私は沖縄出身で、沖縄の海を中心とした自然環境保護に関わる活動や調査にも関わる中で「未来の自然環境保護方針を大人だけで決めてしまっていないのだろうか」という疑問を持つようになりました。私は現在琉球大学でアザミサンゴの研究を行っていますが、沖縄の豊かな生態系への知見を深めるだけでなく、次世代に豊かな自然環境を残すために、研究者としてできることがもっとあるのではないかと考えています。例えば環境保護の方針検討や活動にもっと中高生を巻き込めるような活動をしたいです。現在中高生向けのネイチャーツアーを研究者仲間と企画しています。どうぞよろしくおねがいします！

リバネスでは仲間を募集中です! 博士大歓迎!

リバネスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」というビジョンを掲げた研究者集団です。「サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える」ことを強みに、異分野の研究者や企業をつなぎ、ともに汗をかきながら社会課題の解決に取り組んでいます。課題を発見し、知識を集めながら仮説を立て、「社会」というフィールドで検証を繰り返して新しい仕組みや知識を生み出し、自ら実装していく。このような業種をリバネスでは「知識製造業」と呼んでいます。これを担えるのは、研究者であり、アントレプレナーであり、好奇心ドリブンで動く人材だと考え、リバネスではそのような仲間を求めています。

リバネスが求める仲間とは？

研究者採用

リバネスが仲間にしたいたのは、研究が好きで、自ら問いを生み、熱意をもって解決に取り組む研究者です。QuestionとPassionをもち、自ら事を仕掛ける研究者を求めています。ぜひ、皆さんの研究テーマをリバネスに持ち込んでください。



アントレプレナー採用

まったく新しいことに挑戦したい、これまでの価値観を変えたい、そのための一歩を踏み出し、最後までやり切る。なんだか楽しそうだからチャレンジしてみたいという方も大歓迎です。リバネスではそんなアントレプレナー精神をもった仲間を求めています。



好奇心ドリブン採用

どんなことに対しても、それは確かなのか？と疑問を投げかける。人に認められたいからではない、ただただ沸き起こる興味こそ、内に秘めた自らの原動力。確信を持っていても、何も確信がなくても、自らの好奇心でアクションを起こす人を待っています。



リバネス流の働き方とは？

リバネス社員はどうやって働いているのか？ここではその一端をご紹介します。

①研究で得たもので入社直後から活躍！

リバネスでは、大学院での研究活動で得た知識そして経験、ネットワークを活用して、入社直後に活躍できる場があります。5月下旬から、異分野の相手と相互理解し、サイエンスやテクノロジーをわかりやすく伝えるサイエンスブリッジコミュニケーションを学ぶための座学講座を受け、その実践として、自らの専門性を生かした実験教室の企画実施や中高生向け科学冊子の取材記事の制作に取り組みます。これらに加えて、自身の興味関心に合わせてプロジェクトにも参画します。入社したばかりでも研究者だからこそその専門性と自身の関心を発揮できるのがリバネスの特徴です。

②時間を区切り、

さまざまなプロジェクトに挑戦する

リバネスでは一人当たり5-10のプロジェクトに取り組みます。そのためには時間の使い方が重要です。そこで、学校で慣れ親しんだ時間割制度を採用し、実際に本社では1時間ごとにチャイムが鳴ります。時間をくぎって頭の中を切り替えながらさまざまなプロジェクトに取り組みます。



▲実験教室の様子

入社3年目社員の1日のスケジュール

9:00	出社 スケジュール、メールのチェック
9:30	社内ミーティング 参画するプロジェクトの定例会議や企業への提案に向けた事前の打ち合わせ
11:30	ランチ
13:00	企業営業 研究開発パートナーを探る企業向けにリバネス研究費や超異分野学会を提案
14:00	提案書の作成 企業へ自分の企画を提案する企画書の作成
15:00	研究者リサーチ リバネス研究費を案内する研究者をリサーチし、新たな人脈をつくる
16:00	ベンチャーとの面談 TECH PLANTER 等に向けた発表内容や資料と一緒に作る
17:00	中高生の研究メンタリング 中高生が推進する研究のメンターとしてディスカッション
18:50	退社

■興味をもった人は会社説明会へ！

リバネスでは毎月1回会社説明会を行っています。当日は、会社紹介の他、リバネスの働き方や採用までの流れについてご説明します。弊社にご興味がある方はぜひご参加ください。お申し込みは採用サイトよりお願いします。

■問い合わせ

ご質問ありましたらお気軽にご連絡ください。
株式会社リバネス（担当：仲栄真、福田）
TEL：03-5227-4198 MAil:saiyo@Lnest.jp

会社説明会
今後の予定

12/15 15:30-17:00

1/25 17:00-18:30

※オンラインでの実施となります。



研究者向け
採用サイト



アントレプレナー向け
採用サイト

『incu・be』を 作っているのはどんな人？

編集部スタッフを紹介します



編集
重永 美由希 博士（理学）

プロフィール

鹿児島県鹿屋市生まれ。専門は有機化学・ケミカルバイオロジー。2016年にリバネスへ入社。現在は研究成果の社会実装を目指すシードアクセラレーションプログラム 鹿児島テックプランターのリーダーを務めながら、地域で研究者の「新しい仕事」を生み出す仕組みづくりをめざす。incu・be編集部としては2019年から制作に関わり、博士学生や地方大学の理系学生のキャリアデザインに注目している。

リバネスでは
仲間を募集中です。

私は大学入学当初から博士課程に進学することを想定していたわけではありません。しかし、ラボに入り、日々自然の真理と向かい合って真摯に議論し、着実に実行を繰り返していく先輩たちの姿に憧れ、今に至ります。勢い進学した私ですが、研究者としての人生設計はとても難しいと感じています。どのように研究テーマを選ぶのかにはオリジナリティが求められるのでそもそも人の真似ができませんし、一体どのような所属になるのかは、アカデミアであろうと企業であろうと基本的に間口の狭い求人になりがちで、自分の思惑どおりの場所にタイミングよく出会えるかはほぼ予測できないからです。それでも、先輩達がどのように考え、選択してきたのかを、もっと聞きたいと思い、学生時代は先輩や先生たちによく話を聞いていましたし、外部の研究者や社会人、起業家の話が聞ける場面には積極的に参加していました。初めは、何か真似できるところはないか、何か「正解」の考え方があるのではないかと考えていたように思います。しかし、聞き続けて得られたのは「正解」がないということでした。それは逆に自分の気持ちをポジティブに変えてくれました。いろんな生き方があるから、私は私なりにいいじゃないかと自由に考えられるようになったのです。

incu・beの制作には2019年から関わっています。いつも、学生時代の私が先輩や友人から聞いてみたかったことを聞きに行こうと考えながら制作をしています。たくさんの方の話を聞くことで、私を含めた若手研究者の「研究者としての生き方」のイメージや選択肢の幅をもっと拡張していきたいのです。正解はない研究者の生き方ですが、自分の選択はいつも最善だったと思い続けられる、その手助けとなるような存在にこの冊子がなれたら嬉しく思います。

リバネスで活躍する研究者と話せるイベントを開催しています！

採用・イベント詳細は
こちらから

リバネススタッフと参加者の
一人一人の未来への熱を語る
Visionary Cafe

会場：リバネス東京本社
日時：2022年2月20日（日）10:00～12:00

異分野の若手研究者が Question・Passion
をぶつける研究交流会

kenQ-Pitch Osaka

会場：リバネス大阪本社
日時：2022年2月20日（日）15:00～16:30



<https://recruit.lne.st/>

研究キャリアの相談所

募集中の求人情報

研究に熱い企業があなたを待っています！

QRコードから各求人の詳細情報をご覧いただけます。興味のある方は各ページの「エントリーする」からご応募ください。リバネスの担当者からご連絡します。

募集職種

研究統括職

aiwell 株式会社

東工大発ベンチャー企業として、東京工業大学との間に協働研究拠点を設け、タンパク質の網羅的解析技術『プロテオミクス』の実用化と社会実装を進めています。タンパク質の変異を画像の比較で特定することで、創薬の現場等でのバイオマーカー候補の早期の発見や、化粧品や食品等の効能効果のエビデンス取得も可能になりました。将来的にはタンパク質をAIの画像判断技術に落とし込み(AIプロテオミクス)、病気の早期発見や医師の診断支援を目指しています。



募集職種

プロジェクトマネージャー職

株式会社ガルテリア

耐酸性紅藻「Galdieria」を通じた貴金属及びレアメタルのリサイクル事業、水質浄化事業、土壌浄化事業における研究開発及び製造を行っているスタートアップ企業です。目下、実現にむけて、藻類の大量培養技術に挑戦する経験のある方を募集しています。地球規模の課題解決のための研究開発をしてみたい、と思っている方、ぜひ仲間になってください。



研究キャリアの相談所の2つの活用方法！

就職活動を始める前に自分の研究キャリアについて改めて考えてみませんか？人に自分のことを話してみると新たな気づきや、決断ができることもあります。改めて自分のキャリアについて話す場がなかなかない、というときには、研究キャリアの相談所にお気軽にご相談ください。

今すぐ相談をする

自身も研究経験のあるリバネスのコミュニケーターが対応。就職活動や進学など、あなたの研究キャリアに関するご相談を受け付けています。簡単に相談内容をフォームに記載ください。

研究キャリアに関する情報を得る

相談事はないけれど、何か新しい機会があれば知りたい！という方も登録ください。新規採用やイベント情報など、研究キャリアに関する情報を不定期にメールにてお知らせします。

どちらも、下記リンクよりご登録ください。

<https://lne.st/rcccrform>



有料職業紹介事業

・許可番号：13-ユ-300411

・範囲：国内における科学技術における専門的・技術的職業

※お問い合わせをいただいた時点ですでに募集を終了している場合もあります。その際はご容赦ください。



人材応援プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、人材応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。

(50音順)

aiwell株式会社
アイザワ証券株式会社
株式会社アオキシントック
味の素ファインテクノ株式会社
アメリエフ株式会社
株式会社池田理化
株式会社 Air Business Club
株式会社エアロジーラボ
大阪ヒートクール株式会社
株式会社AutoPhagyGO
オブティウム・バイオテクノロジー株式会社
オリエンタルモーター株式会社
株式会社カイオム・バイオサイエンス
株式会社ガルテリア
川村通商株式会社
CRUST JAPAN株式会社
コージンバイオ株式会社
株式会社コルク
株式会社ジャパンモスファクトリー
株式会社セールスフォース・ドットコム
株式会社セルフファイバ
ソニーグループ株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大正製薬株式会社

株式会社ダイセル
株式会社ダスキン
THK株式会社
東洋紡株式会社
日本水産株式会社
日本ハム株式会社
日本たばこ産業株式会社
株式会社日本ネットワークサポート
株式会社バイオインパクト
ハイラブル株式会社
パナソニック株式会社 アプライアンス社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ヒューマノーム研究所
株式会社ファームノートホールディングス
株式会社フォーカスシステムズ
株式会社プランテックス
マイキャン・テクノロジーズ株式会社
三井化学株式会社
明治ホールディングス株式会社
ヤマハ発動機株式会社
株式会社吉野家
リアルテックホールディングス株式会社
株式会社リコー
ロート製薬株式会社

若手研究者のための研究キャリア発見マガジン『incu・be』とは

『incu・be』は、目標を見つけ、それに向かって実力を養い (incubate)、未来の自分をつくり出す (be) ためのきっかけを提供します。自らの未来に向かって主体的に考え行動する若手研究者を、企業・大学とともに応援します。

『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理工系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等に設置いただいているほか、「研究応援教員」のご協力により研究室や講義にて配布いただいております。学校単位での配布・設置をご希望の場合、その他お問い合わせは下記までご連絡ください。

株式会社リバネス incu・be編集部
TEL : 03-5227-4198
E-mail : incu-be@Lne.st

研究応援教員募集

研究の世界に踏み出そうとしている学生に対し「研究キャリア」を考えるきっかけを提供するため、『incu・be』の配布等にご協力くださる先生方を募集しております。『incu・be』を毎号、ご希望の部数を無料でお届けする他、リバネス研究費やキャリアイベント等のお知らせをメールにてお送りいたします。ご協力いただける場合には、下記のフォームからご登録をお願いします。

<https://r.lne.st/professor/>



中高生のための研究キャリア・サイエンス入門
『someone』(サムワン)



研究をはじめたばかりの読者に、最先端の研究内容をご紹介します。
未来の研究仲間となる後輩にお勧めください。
お問い合わせ : someone@leaveanest.com

++ 編集後記 ++

私は、修士・博士・ポスドク・大学教員を経て、リバネスに入社しました。自分自身が歩む中で感じた発見や疑問をヒントに、入社以来、ずっとincu・beの記事を書き続けて、研究者のキャリアの面白さの言語化に取り組んでいます。

そして本号初めて編集長を担当しました。表紙では、学位修了後の分岐点のイメージを、大学で研究を終えて帰る自分と、道の先の街灯で表現しています。辺りが暗くて不安でも、自分を信じて歩みを進めていけば、次の分岐点が出てきます。まさに本号における『分岐点を自分で創る』研究者たちの人物名鑑が、皆さんが分岐点を創るヒントになりますように。(神藤 拓実)

Leave a Nest

2021年12月1日 発行
incu・be編集部 編

編集長 神藤 拓実

art crew さかうえだいすけ

清原 一隆 (KIYO DESIGN)

越海 辰夫 (越海編集デザイン)

編集 楠 晴奈/重永 美由希/伊達山 泉/
瀬野 亜希/松原 尚子/花里 美紗穂/
塚越 光

記者 内山 啓文/環野 真理子/小山 奈津季/
立花 智子/富田 京子/仲栄 真 礁/
中島 翔太/西村 知也/八木 佐一郎

発行人 丸 幸弘

発行所 リバネス出版 (株式会社リバネス)
〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4
飯田橋御幸ビル5階

TEL 03-5227-4198

FAX 03-5227-4199

E-mail incu-be@Lne.st (incu・be編集部)

リバネスHP <https://lne.st>

印刷 株式会社 三島印刷

© Leave a Nest Co., Ltd. 2021 無断転載禁ず。

